

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 30 年 2 月 11 日 13 時 25 分 ~ 15 時 05 分)

注 意 事 項

- 1. 試験問題の数は 51 問で解答時間は正味 1 時間 40 分である。
- 2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

正解は「e」であるから答案用紙の **(e)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101 (a) (b) (c) (d) (e)

↓

101 (a) (b) (c) (d) (●)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ (c)
(d)	(d)
(e)	(●)

- 1 食物繊維の十分な摂取によって発症リスクが低下するのはどれか。
 - a 二次性高血圧
 - b 2型糖尿病
 - c 高尿酸血症
 - d 慢性膵炎
 - e 骨粗鬆症

- 2 インシデントレポートについて正しいのはどれか。
 - a 患者に実害がない場合でも提出する。
 - b 都道府県ごとに報告様式が定められている。
 - c 医療事故について上司に説明するためのものである。
 - d 医療事故の責任の所在を明らかにすることが目的である。
 - e インシデントレポートの提出件数が少ないほど医療の質が高い。

- 3 成長および発達に異常を認めない体重9kgの1歳0か月の男児が1日に必要とするエネルギー量(kcal)はどれか。
 - a 600
 - b 900
 - c 1,200
 - d 1,500
 - e 1,800

- 4 診療録について誤っているのはどれか。
- a 傷病名を記載する。
 - b 記載者を明らかにする。
 - c 修正する場合は履歴を残す。
 - d 診療完結日から5年間保存する。
 - e 入院中変化がない日は記載を省略できる。
- 5 身体診察と用いる手指の部位との組合せで適切なのはどれか。
- a 脾腫の触診 ————— 手背
 - b 腹部の打診 ————— 母指の先端
 - c 上顎洞の圧痛 ————— 手掌近位部
 - d 声音振盪の触診 ————— 示指の先端
 - e 鎖骨上リンパ節の触診 ——— 示指から環指までの指腹
- 6 筋肉注射に適さないのはどれか。
- a 三角筋
 - b 大殿筋
 - c 中殿筋
 - d 上腕二頭筋
 - e 大腿四頭筋(外側広筋)

7 死にゆく人の心の動きを、否認、怒り、取引き、抑うつ、受容の5段階で表し、終末期ケアの在り方に影響を与えた“On death and dying”(死ぬ瞬間)の著者はどれか。

- a William Osler〈ウィリアム・オスラー〉
- b Helen Adams Keller〈ヘレン・アダムス・ケラー〉
- c Albert Schweitzer〈アルベルト・シュバイツァー〉
- d Florence Nightingale〈フロレンス・ナイチンゲール〉
- e Elisabeth Kübler-Ross〈エリザベス・キューブラー=ロス〉

8 患者の訴えのうち、抑うつ状態を最も疑わせるのはどれか。

- a 「すぐにかっとなってしまう」
- b 「何をするのも億劫で仕方ありません」
- c 「なんとなく落ち着かない気持ちになります」
- d 「昼間にうとうとすることが多くなりました」
- e 「外に出ると誰かに見られているような気がします」

9 異常呼吸と疾患の組合せで誤っているのはどれか。

- a 起坐呼吸 ————— 肺水腫
- b 呼気延長 ————— 気管支喘息
- c 口すぼめ呼吸 ————— COPD
- d Kussmaul 呼吸 ————— 過換気症候群
- e Cheyne-Stokes 呼吸 ————— 脳梗塞

- 10 医療面接におけるシステムレビュー〈review of systems〉で正しいのはどれか。
- a 時系列に沿って病歴聴取を行う。
 - b 患者の言葉で既往歴を体系的に話してもらう。
 - c エビデンスを体系的にまとめて患者に説明する。
 - d 医療面接の最後に聴取した病歴の要約を述べる。
 - e 主訴と関係のない症状を含め臓器系統別に病歴を聴取する。
- 11 座位から体幹を前傾させると、より明瞭になる聴診所見はどれか。
- a Ⅲ音
 - b Ⅱ音の分裂
 - c 頸動脈雑音
 - d 心基部拡張期雑音
 - e 心尖部収縮期雑音
- 12 アルコール依存症でみられる神経学的所見のうち、小脳失調の所見はどれか。
- a 外眼筋麻痺
 - b 記銘力障害
 - c つぎ足歩行不能
 - d Romberg 徴候陽性
 - e 手袋靴下型感覚障害

13 関節リウマチの診断において最も有用なのはどれか。

- a 発熱
- b 冷感
- c 皮疹
- d しびれ
- e 関節腫脹

14 産業保健における過重労働対策として適切でないのはどれか。

- a 時間外労働時間の削減
- b 年次有給休暇の取得促進
- c 担当業務目標達成の徹底
- d 健康診断結果に基づく事後措置
- e 長時間労働者への医師による面接指導

15 疾患と症状の組合せで誤っているのはどれか。

- a 心気症 ————— 身体的愁訴
- b うつ病 ————— 心気妄想
- c 強迫性障害 ————— 作為体験
- d 統合失調症 ————— 妄想知覚
- e 心的外傷後ストレス障害〈PTSD〉 ———— 過覚醒

- 16 現役並み所得のない75歳以上の者の医療費の一部負担(自己負担)割合はどれか。
- a なし
 - b 1割
 - c 2割
 - d 3割
 - e 5割
- 17 腎後性無尿の原因になるのはどれか。
- a 熱傷
 - b ショック
 - c 後腹膜線維症
 - d 急性尿細管壊死
 - e ネフローゼ症候群
- 18 成人の心肺蘇生における胸骨圧迫について適切なのはどれか。
- a 胸骨の上半分を押す。
 - b 100～120/分の速さで押す。
 - c 胸壁が3cm程度沈む強さで押す。
 - d 胸骨圧迫と人工呼吸は30対1で行う。
 - e 患者の下肢を挙上した体位で実施する。

- 19 胸やけの誘因となりにくいのはどれか。
- a 過食
 - b 運動
 - c 肥満
 - d 高脂肪食
 - e 前屈姿勢
- 20 糖尿病の患者における行動変容の準備期と考えられるのはどれか。
- a 食後の運動を7か月続けている。
 - b 夕食後にデザートを食べている。
 - c テレビを見ているとついお菓子を食べてしまうことがある。
 - d 糖尿病が悪化しているので来月から間食をやめようと考えている。
 - e 間食した後はストレッチ体操をすればよいと思っている。
- 21 臨床検査のパニック値でないのはどれか。
- a 白血球 $750/\mu\text{L}$
 - b 動脈血 pH 7.18
 - c 血清K 7.0 mEq/L
 - d 血清Ca 14.2 mg/dL
 - e 血清総コレステロール 320 mg/dL

- 22 医療記録の保存義務期間が最も長いのはどれか。
- a エックス線写真
 - b 看護記録
 - c 手術記録
 - d 処方箋
 - e 診療録
- 23 妊娠中の深部静脈血栓症の原因として最も注意すべきなのはどれか。
- a 妊娠悪阻
 - b 過期妊娠
 - c 妊娠糖尿病
 - d 羊水過少症
 - e 血液型不適合妊娠
- 24 診療ガイドラインについて正しいのはどれか。
- a 症例報告を新たに集積して作成される。
 - b 併存疾患が多い患者ほど推奨を適用しやすい。
 - c 推奨と異なる治療を行うと患者に危険が及ぶ。
 - d 当該疾患の患者全員に同一の推奨を適用できる。
 - e 患者と医療者の意思決定の材料の一つとして利用する。

25 成人で加齢とともに増加するのはどれか。

- a 腎濃縮力
- b 細胞内液量
- c 末梢血管抵抗
- d 糸球体濾過量〈GFR〉
- e 1日当たりクレアチニン産生量

26 成人の口腔内を舌圧子とペンライトとを用いて診察する際、視認できるのはどれか。

- a 顎下腺
- b 舌小帯
- c 甲状腺
- d 咽頭扁桃
- e 下咽頭梨状陥凹

27 56歳の男性。1週間前からの右眼の霧視を主訴に来院した。15年ほど前から職場の健康診断で高血糖を指摘されていたが、受診していなかった。先月内科を受診したところHbA1c 11.5%(基準4.6~6.2)であった。視力は右0.3(0.6×-0.75D)左0.7(1.2×-1.0D)で、眼圧は右眼20mmHg、左眼14mmHg。右眼の眼底写真(別冊No. 1A)と蛍光眼底写真(別冊No. 1B)とを別に示す。

対応として適切なのはどれか。

- a 抗菌薬点眼
- b 硝子体手術
- c 網膜光凝固
- d 抗緑内障薬点眼
- e 副腎皮質ステロイド経口投与

別 冊

No. 1 A、B

28 43歳の男性。足の痛みを主訴に来院した。2日前に左足の第一中足趾節関節が急激に痛くなった。他の場所に痛みはない。以前にも同部位に同様の痛みを経験したことがある。3年前から毎年、健診で高尿酸血症を指摘されている。1か月前に受けた健診で、尿酸値は9.0 mg/dLであった。意識は清明。体温37.0℃。脈拍80/分、整。血圧132/88 mmHg。左足の第一中足趾節関節に熱感と圧痛とを認める。同部位の写真(別冊No. 2)を別に示す。

まず行うべき治療はどれか。

- a ギプス固定
- b 抗菌薬の投与
- c 免疫抑制薬の投与
- d 尿酸合成阻害薬の投与
- e 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の投与

別 冊

No. 2

29 35歳の男性。ふらつきを主訴に来院した。1年前に仕事上のトラブルをきっかけに退職した。その後は自宅に閉じこもりがちになり、食事は不規則で菓子パンやおにぎりを好んで摂取していた。1週間前から歩行時のふらつきが目立つようになり四肢のしびれ感も訴えるようになったため、心配した家族に付き添われて受診した。意識は清明。脈拍72/分、整。血圧124/68 mmHg。腱反射は、上肢では減弱し、膝蓋腱反射とアキレス腱反射は消失している。Babinski徴候は陰性である。四肢筋力は遠位部優位に低下している。両下肢で痛覚過敏、振動覚の低下を認める。

この患者に補充すべきなのはどれか。

- a 亜鉛
- b 葉酸
- c ニコチン酸
- d ビタミンB₁
- e ビタミンB₁₂

30 23歳の女性。排尿時痛と下腹部痛とを主訴に来院した。性交の3日後から排尿時痛を感じるようになった。性交の4日後に黄色帯下と下腹部痛が出現したため受診した。身長160 cm、体重52 kg。体温37.6℃。脈拍88/分、整。血圧104/72 mmHg。呼吸数20/分。腹部は平坦で、下腹部に反跳痛を認める。内診で子宮は正常大で圧痛を認める。付属器は痛みのため触知できない。腔鏡診で外子宮口に膿性分泌物を認める。

この患者に行う検査として適切でないのはどれか。

- a 尿沈渣
- b 帯下の細菌培養
- c 経膈超音波検査
- d 子宮卵管造影検査
- e 帯下の病原体核酸増幅検査

- 31 北米での医学会参加のため搭乗していた旅客機内でドクターコールがあり対応した。目的地の空港のスタッフに情報提供した方が良いと判断し、乗務員に伝えたところ、「所見をメモして欲しい」と依頼され記載した文面を示す。

A 78-year-old female passenger has developed swelling of her left lower leg towards the end of a long-haul flight. She does not complain of any pain at rest. She has pitting edema of her left lower leg, but no color or temperature changes are observed. Calf pain is induced on dorsiflexion of her left foot. Because she suffers from shortness of breath, the possibility of pulmonary embolism should be considered, and transfer to an appropriate hospital is advised.

原因として考えられるのはどれか。

- a Acute kidney injury
- b Deep venous thrombosis
- c Femoral neck fracture
- d Heart failure
- e Peripheral arterial disease

32 88歳の男性。疲労感を主訴に来院した。1週間前に上気道炎症状があった。3日前から疲労感が強くなり、昨日から食事を摂ることができなくなった。トイレに起きるのもつらく、オムツをしていた。過去の健診で糖尿病の可能性を指摘されたことがある。現在、服薬はしていない。意識は清明。体温35.7℃。脈拍112/分、整。血圧156/92 mmHg。下肢に挫創を認める。

この患者に使用した物で、標準予防策〈standard precautions〉の観点から感染性廃棄物として扱わないのはどれか。

- a 舌圧子を取り出した袋
- b 口腔ケアに用いたブラシ
- c 便が付着したオムツ
- d 下肢の創部にあてたガーゼ
- e 喀痰が付いたティッシュペーパー

33 85歳の女性。肝門部胆管癌で数か月の余命と告知されている。本人の希望で在宅医療を行っており、疼痛に対するコントロールは十分に行われている。ある日、訪問した在宅医に「家族に迷惑がかかるから入院したい」と本人が告げた。

在宅医の対応として適切でないのはどれか。

- a 「入院という選択はありません」
- b 「自宅にはいたくないのですね」
- c 「ご家族の思いも聞いてみませんか」
- d 「訪問看護師も一緒に話し合しましょう」
- e 「何か困っていることがあれば教えてください」

34 64歳の女性。左下腿の腫脹と疼痛のために救急車で搬入された。3日前から左足部が腫脹し、本日は下腿全体に広がって動けなくなったため救急車を要請した。最近の外傷歴はない。昨日からは倦怠感が強く、食事を摂れていない。健診で糖尿病の可能性を指摘されていたが、治療は受けていなかった。意識はやや混濁。身長154 cm、体重72 kg。体温38.4℃。心拍数112/分、整。血圧98/64 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂96%(room air)。腹部は平坦、軟。左下腿に発赤、熱感および握雪感を伴う腫脹がある。尿所見：蛋白1+、糖3+、ケトン体2+、潜血1+、沈渣に白血球を認めない。血液所見：赤血球468万、Hb13.9 g/dL、Ht42%、白血球16,300(桿状核好中球30%、分葉核好中球50%、好酸球1%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球12%)、血小板41万。血液生化学所見：総蛋白6.2 g/dL、アルブミン2.6 g/dL、総ビリルビン0.9 mg/dL、直接ビリルビン0.2 mg/dL、AST28 U/L、ALT16 U/L、LD177 U/L(基準176~353)、ALP285 U/L(基準115~359)、 γ -GTP132 U/L(基準8~50)、アミラーゼ50 U/L(基準37~160)、CK242 U/L(基準30~140)、尿素窒素48 mg/dL、クレアチニン1.6 mg/dL、尿酸7.9 mg/dL、血糖398 mg/dL、HbA1c8.8%(基準4.6~6.2)、Na141 mEq/L、K5.4 mEq/L、Cl97 mEq/L。CRP18 mg/dL。下腿の写真(別冊No. 3A)と左下腿CT(別冊No. 3B)とを別に示す。

直ちに行うべき処置はどれか。

- a 局所切開
- b 利尿薬投与
- c 外用抗菌薬塗布
- d アドレナリン静注
- e ステロイドパルス療法

別冊

No. 3 A、B

35 30歳の初産婦。妊娠33週0日に破水感を主訴に来院した。これまでの妊娠経過に異常はなかった。心拍数80/分、整。血圧110/70 mmHg。臍内に貯留した羊水は透明で、児は第1頭位、不規則な子宮収縮を認める。

妊娠継続の可否を決定する上で、有用性が低いのはどれか。

- a 体温
- b 内診
- c 尿検査
- d 腹部触診
- e 血液検査

36 62歳の女性。頭痛を主訴に来院した。4日前の起床時に突然の頭痛が生じた。臥床して様子を見ていたが頭痛が持続したため、3日前に自宅近くの診療所を受診し、鎮痛薬を処方された。しかし、その後も頭痛が改善しないため受診した。意識は清明。身長157 cm、体重54 kg。体温36.6℃。脈拍88/分、整。血圧118/82 mmHg。呼吸数16/分。項部硬直を認める。血液所見：赤血球362万、Hb 11.2 g/dL、Ht 44%、白血球9,800(桿状核好中球12%、分葉核好中球46%、好酸球1%、好塩基球1%、単球2%、リンパ球38%)、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン4.8 g/dL、尿素窒素9 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL。CRP 3.4 mg/dL。頭部CT(別冊No. 4)を別に示す。

次に行うべき検査はどれか。

- a 脳波
- b 脳血管造影検査
- c 脳脊髄液培養検査
- d 頭部MRI拡散強調像撮像
- e インフルエンザウイルス迅速抗原検査

別冊

No. 4

37 78歳の男性。脳梗塞のため入院中である。症状は安定し意識は清明である。左上下肢の運動麻痺がありリハビリテーションを行うことになった。一人暮らしのため、息子夫婦が住む他県での療養生活を希望している。

今後の療養について、施設間の連携を調整するのにふさわしい職種はどれか。

- a 看護師
- b 保健師
- c 薬剤師
- d 作業療法士
- e 医療ソーシャルワーカー

38 56歳の男性。急性心筋梗塞と診断され、経皮的冠動脈インターベンションを受けて入院中である。病院の受付から、「この患者が勤務する会社の上司から、仕事に影響があるためこの患者の診断名と病状を教えて欲しいと電話がかかってくる」と連絡があった。

対応として正しいのはどれか。

- a 診断名と病状を伝える。
- b 病状は伝えず、診断名のみを伝える。
- c 診断名と病状を話すことはできないと伝える。
- d 患者の家族の同意を得て、診断名と病状を伝える。
- e 患者の知り合いであることが証明されれば、診断名と病状を伝える。

39 30歳の男性。起床後の尿がコーラのような色であったことを主訴として来院した。幼少期から扁桃炎を繰り返している。7日前に咽頭痛と発熱があったが軽快した。尿所見：暗赤色、蛋白2+、潜血3+。尿沈渣の顕微鏡写真(別冊No. 5)を別に示す。

障害されている部位として最も考えられるのはどれか。

- a 糸球体
- b 尿細管
- c 腎 盂
- d 尿 管
- e 膀 胱

別 冊

No. 5

40 52歳の男性。突然の心停止のため救急車で搬入された。マラソン競技大会で走行中に突然倒れ、直後から呼びかけに反応なく、呼吸もなかった。現場で大会救護員が胸骨圧迫を開始し、AEDによる音声指示でショックを1回施行した。救急隊到着時の意識レベルはJCSⅢ-300。頸動脈の拍動は触知可能であった。救命救急センター搬入時の意識レベルはGCS 6。心拍数96/分(洞調律)。血圧108/72 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂ 100%(リザーバー付マスク 10 L/分 酸素投与下)。

脳保護のために行うべき治療はどれか。

- a 人工過換気
- b 体温管理療法
- c 静脈麻酔薬投与
- d 高浸透圧利尿薬投与
- e 副腎皮質ステロイド投与

41 3歳の男児。発熱と下肢痛とを主訴に両親に連れられて来院した。1か月前に左足をひねって疼痛を自覚した。その後右下肢の疼痛も訴えるようになった。2週間前に38℃台の発熱が出現し、両下肢の疼痛も増強した。かかりつけ医を受診して抗菌薬を内服したが、発熱が持続している。身長103 cm、体重17 kg。体温37.5℃。脈拍128/分、整。血圧106/70 mmHg。皮膚に紫斑を認めない。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。咽頭に発赤を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。表在リンパ節は触知しない。下肢に関節腫脹や可動域制限を認めない。血液所見：赤血球402万、Hb 11.1 g/dL、Ht 33%、網赤血球1.8%、白血球3,400(桿状核好中球3%、分葉核好中球8%、好酸球1%、単球4%、リンパ球84%)、血小板6.0万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dL、アルブミン4.4 g/dL、総ビリルビン0.3 mg/dL、直接ビリルビン0.1 mg/dL、AST 27 U/L、ALT 19 U/L、LD 741 U/L(基準335~666)、ALP 456 U/L(基準307~942)、CK 60 U/L(基準59~332)、尿素窒素10 mg/dL、クレアチニン0.3 mg/dL、尿酸5.5 mg/dL、Na 140 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 101 mEq/L、Ca 11.0 mg/dL、P 6.0 mg/dL。CRP 1.2 mg/dL。両下肢エックス線写真で異常を認めない。骨髓血塗抹 May-Giemsa 染色標本(別冊No. 6)を別に示す。

可能性が高い疾患はどれか。

- a 骨髄炎
- b 骨肉腫
- c 急性白血病
- d 再生不良性貧血
- e 血球貪食症候群

別冊

No. 6

次の文を読み、42、43の問いに答えよ。

68歳の女性。意識障害と右上下肢の麻痺のため救急車で搬入された。

現病歴 : 3年前から高血圧症と心房細動に対して降圧薬と抗凝固薬との内服治療を受けていた。夕方、夫との買い物の途中で右手に力が入らなくなり、右足の動きも悪くなった。帰宅後、玄関先に倒れ込んでしまい意識もはっきりしない様子であったため、夫が救急車を要請した。

既往歴 : 7歳時に急性糸球体腎炎で入院。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父親が高血圧症で治療歴あり。

現症 : 意識レベルはGCS 9 (E3V2M4)。身長 158 cm、体重 54 kg。体温 35.8℃。心拍数 68/分、不整。血圧 192/88 mmHg。呼吸数 10/分。SpO₂ 97% (鼻カニューラ 4 L/分 酸素投与下)。頸静脈の怒張を認めない。心音は心尖部を最強点とするⅡ/Ⅵの収縮期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。右上下肢に弛緩性麻痺を認める。

検査所見 : 血液所見：赤血球 398 万、Hb 10.2 g/dL、Ht 34%、白血球 8,800、血小板 22 万、PT-INR 2.1 (基準 0.9~1.1)。血液生化学所見：総蛋白 6.8 g/dL、AST 18 U/L、ALT 12 U/L、尿素窒素 22 mg/dL、クレアチニン 1.2 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 4.8 mEq/L、Cl 109 mEq/L。頭部 CT で左被殻に広範な高吸収域を認める。

42 CT撮影を終え処置室に戻ってきたところ、呼吸状態が悪化した。舌根沈下が強く、用手気道確保を行ったが SpO₂ の改善がみられなかった。

この患者にまず行う気道管理として適切なのはどれか。

- a 経口気管挿管
- b 経鼻気管挿管
- c 輪状甲状靱帯切開
- d 経鼻エアウェイ挿入
- e ラリンジアルマスク挿入

その後の経過 : 薬物療法とリハビリテーションによって順調に回復した。この患者に抗凝固薬を再開すべきかどうかについて文献検索を行うため、患者の問題を以下のように PICO で定式化した。

Patient(対象患者) : 高血圧症と心房細動とを合併した脳出血の女性

Intervention(介入) : 抗凝固薬内服再開

Comparison(対照) : 抗凝固薬内服中止

Outcome(結果) :

43 に適さない項目はどれか。

- a 出血の増加
- b 心房細動の改善
- c 生命予後の延長
- d 入院機会の減少
- e 脳梗塞発症率の低下

次の文を読み、44、45の問いに答えよ。

86歳の男性。右胸部痛と食欲不振とを主訴に来院した。

現病歴 : 10年前からCOPDのために外来通院中であった。2週間前から微熱、全身倦怠感および食欲不振を自覚していた。昨日、右胸部痛が出現し、本日夜間に39.0℃の発熱と右胸部痛が増悪したため、救急外来を受診した。

既往歴 : COPDと高血圧症のため通院中である。

生活歴 : 妻および長男夫婦と同居している。喫煙は20本/日を70歳まで50年間。飲酒はビール350mL2、3本/日を50年間。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。身長160cm、体重52kg。体温38.8℃。脈拍100/分、整。血圧120/68mmHg。呼吸数24/分。SpO₂86%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔と咽頭とに異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。甲状腺と頸部リンパ節とを触知しない。心音に異常を認めないが、右胸部で呼吸音が減弱している。打診では右肺で濁音を呈する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢の筋力は保たれている。腱反射に異常を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球355万、Hb12.1g/dL、Ht36%、白血球16,500(桿状核好中球25%、分葉核好中球65%、好酸球1%、単球2%、リンパ球7%)、血小板40万。血液生化学所見：総蛋白5.9g/dL、アルブミン2.2g/dL、AST29U/L、ALT18U/L、LD173U/L(基準176~353)、ALP223U/L(基準115~359)、 γ -GTP44U/L(基準8~50)、CK260U/L(基準30~140)、尿素窒素35mg/dL、クレアチニン1.6mg/dL、血糖161mg/dL、HbA1c5.7%(基準4.6~6.2)、Na131mEq/L、K4.3mEq/L、Cl97mEq/L、Ca8.4mg/dL。CRP31mg/dL。動脈血ガス分析(room air)：pH7.55、PaCO₂32Torr、PaO₂56Torr、HCO₃⁻28mEq/L。心電図で異常を認めない。臥位のポータブル胸部エックス線写真(別冊No.7A)と胸部CT(別冊No.7B、C)とを別に示す。

別冊

No. 7 A~C

44 この画像所見をきたす原因として最も考えられるのはどれか。

- a 低アルブミン血症
- b 肺癌の胸膜播種
- c 横隔神経麻痺
- d 細菌感染
- e 腎不全

45 次に行うべき検査はどれか。

- a 胸腔穿刺
- b FDG-PET
- c 心エコー検査
- d 気管支鏡検査
- e 胸部造影 MRI

次の文を読み、46、47の問いに答えよ。

67歳の男性。昨日の昼から尿がほとんど出ていないため来院した。

現病歴 : 3か月前から昼夜ともに頻尿があり、2か月前から1回尿量の減少と排尿後の残尿感があった。昨日の昼から尿が出ず、下腹部が張ってきたため受診した。体調不良のため、一昨日の夕食後から市販薬を服用している。他の医療機関は受診していない。

既往歴 : 特記すべきことはない。

家族歴 : 父親が糖尿病。

生活歴 : 喫煙は20本/日を40年間。飲酒は機会飲酒。

現症 : 意識は清明。体温35.7℃。脈拍104/分、整。血圧158/82 mmHg。頭頸部と胸部とに異常を認めない。腹部は下腹部が膨隆しておりやや硬く、軽度の圧痛を認める。直腸指診で鶏卵大で弾性軟の前立腺を触知し、圧痛を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白1+、糖2+、潜血1+、沈渣に赤血球1～5/1視野、白血球5～10/1視野。血液所見：赤血球478万、Hb 14.1 g/dL、Ht 46%、白血球7,800、血小板35万。血液生化学所見：尿素窒素21 mg/dL、クレアチニン1.3 mg/dL、Na 141 mEq/L、K 4.5 mEq/L、Cl 103 mEq/L。CRP 0.5 mg/dL。

46 市販の薬剤による症状の可能性を考えた場合に適切な質問はどれか。

- a 「胃薬を飲みましたか」
- b 「風邪薬を飲みましたか」
- c 「睡眠薬を飲みましたか」
- d 「痛み止めを飲みましたか」
- e 「ビタミン薬を飲みましたか」

47 この患者の病態に関与している部位はどれか。

- a 腎動脈
- b 腎 臓
- c 尿 管
- d 膀 胱
- e 前立腺

次の文を読み、48、49の問いに答えよ。

74歳の男性。全身倦怠感と食欲低下の精査で指摘された胃癌の手術のため入院した。

現病歴 : 2か月前から全身倦怠感を自覚していた。1か月半前から食欲低下があり、3週間前から腹部膨満感が出現したため、かかりつけ医から紹介されて受診した。上部内視鏡検査で幽門部に腫瘍病変と幽門狭窄とを指摘され、胃癌の確定診断を得たために手術を目的に入院した。昨夜嘔吐した後から咳嗽が続いている。

既往歴 : 60歳時に職場の健康診断で耐糖能異常を指摘され、スルホニル尿素薬で内服治療中である。

生活歴 : 喫煙は15本/日を50年間。飲酒は週2回程度。

家族歴 : 父親が肺癌のため70歳で死亡。

現症 : 身長170cm、体重83kg。体温37.8℃。脈拍80/分、整。血圧140/76mmHg。呼吸数20/分。SpO₂96%(room air)。眼瞼結膜は軽度貧血様であり、眼球結膜に黄染を認めない。心音に異常を認めない。呼吸音は右胸背部にrhonchiを聴取する。上腹部は膨隆しているが、軟で、波動を認めない。圧痛と筋性防御とを認めない。四肢の運動麻痺は認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球334万、Hb9.2g/dL、Ht29%、白血球10,500(桿状核好中球10%、分葉核好中球64%、好酸球2%、好塩基球1%、単球3%、リンパ球20%)、血小板26万。血液生化学所見：総蛋白6.2g/dL、アルブミン2.9g/dL、総ビリルビン0.9mg/dL、AST28U/L、ALT25U/L、LD145U/L(基準176~353)、ALP206U/L(基準115~359)、尿素窒素24mg/dL、クレアチニン0.9mg/dL、血糖128mg/dL、HbA1c7.9%(基準4.6~6.2)、総コレステロール156mg/dL、トリグリセリド196mg/dL、Na133mEq/L、K4.2mEq/L、Cl96mEq/L。CRP3.4mg/dL。胸部エックス線写真で右下肺野に浸潤影を認める。

48 手術は患者の状態が安定するまで延期することにした。

この患者に安全に手術を行うために、入院後手術までの間に行うべきなのはどれか。

- a 輸血
- b 胃瘻の造設
- c 経口補液の投与
- d 抗菌薬の経静脈投与
- e スルホニル尿素薬の増量

49 患者の状態が安定したため、入院10日目に腹腔鏡下の幽門側胃切除術を施行することにした。

この手術に助手として参加する際に正しいのはどれか。

- a 手指消毒には滅菌水が必要である。
- b 滅菌手袋は手指消毒の後に装着する。
- c 滅菌された帽子(キャップ)を着用する。
- d 流水で10分以上手指の擦り洗いを行う。
- e 腹腔鏡下手術では、清潔ガウンを着用しない。

次の文を読み、50、51の問いに答えよ。

56歳の男性。胸痛のため救急車で搬入された。

現病歴 : 起床時に胸痛を自覚した。10分経過しても胸痛が改善しないため救急車を要請した。救急隊の到着時、冷汗が著明で、搬送中に悪心を訴えた。建築業で普段から重労働をしているが、今回のような胸痛が起こったことはない。

既往歴 : 高血圧と高血糖とを職場の健康診断で指摘されていたが、受診はしていない。常用薬はない。アレルギーの既往歴はない。

生活歴 : 妻と息子との3人暮らし。喫煙は20本/日を36年間。飲酒は週末に焼酎を2合程度。

家族歴 : 3歳年上の兄が48歳時に心筋梗塞で死亡。

現症 : 意識は清明。表情は苦悶様である。身長165 cm、体重84 kg。体温36.2℃。脈拍120/分、整。血圧160/96 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 97% (鼻カニューラ3 L/分 酸素投与下)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。肥満のため頸静脈は評価できない。心雑音を聴取しない。呼吸音は両側肺下部に coarse crackles を聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下肢に浮腫を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白1+、糖2+。血液所見：赤血球463万、Hb 13.2 g/dL、Ht 40%、白血球12,000、血小板28万。血液生化学所見：総蛋白6.0 g/dL、アルブミン3.2 g/dL、尿素窒素30 mg/dL、クレアチニン1.5 mg/dL、血糖230 mg/dL、Na 130 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 97 mEq/L。心筋トロポニンT迅速検査陽性。12誘導心電図で洞性頻脈と前胸部の広範なST上昇とを認める。

50 この患者の胸痛について、診断に有用な情報はどれか。

- a 左乳房付近の痛み
- b 飲水で増悪する痛み
- c 下顎へ放散する痛み
- d 吸気時に増悪する痛み
- e 衣類が触れた際の痛み

51 救急室で血圧が 70/40 mmHg まで低下した。

このときみられる可能性が高い身体所見はどれか。

- a テタニー
- b 口唇の腫脹
- c 皮膚の紅潮
- d 下肢の紫斑
- e 四肢末梢の冷感

